

# 小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄  
に未入力なし

病院名	京都大学医学部附属病院													
よみがな	きょうとだいがくいがくぶふぞくびょういん										✓			
郵便番号	〒	606-8507									✓			
住所	京都府	京都市左京区聖護院川原町54									✓			
よみがな	きょうとしさきょうくしょうごいんかわはらちょう										✓			
電話(代表)	075-751-3111										✓			
FAX(代表)														
e-mail(代表)														
HPアドレス	<a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/index.html">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/index.html</a>													
診療科	開設診療科数	24									✓			
	診療科名(具体的に記載)	内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、矯正歯科、麻酔科、救急科、循環器内科、脳神経内科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、リハビリテーション科、病理診断科									✓			
	外来診療受付時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	15	分	～	11	時	00	分	✓
		曜日		時間		時		分	～		時		分	
		曜日		時間		時		分	～		時		分	
	外来診療時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	30	分	～	17	時	15	分	✓
		曜日		時間		時		分	～		時		分	
		曜日		時間		時		分	～		時		分	
	休診日	毎週土曜・日曜日、祝祭日、年末年始(12/29～1/3)、創立記念日(6/18)										✓		
	初診時の予約	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
	初診時の紹介状の要否	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
病床数	総病床数	1,121	床								✓			

診療実績 (平成30年1月1日～12月31日)

年間新入院患者数 ※1	1,494	人	✓
年間新入院小児がん患者数 ※1	263	人	✓
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	17.6	%	
小児がん入院患者数 ※2	281	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	5,851	日	✓
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	53	人	✓
外来小児がん患者数 ※4	2,773	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	14	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	15	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	63	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	53	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	97	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数	85	機関	✓

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。

※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

各種がんのユニット外来(小児がん、脳腫瘍・小児脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、胃がん・GIST、大腸がん、すい臓がん、胆道がん、前立腺がん、婦人科腫瘍、メラノーマ、NET(神経内分泌腫瘍)、原発不明・希少がん、家族性腫瘍)、長期フォローアップ外来

✓

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

別紙1

職員数

総数(事務職員を含む)

3,569 人

人数 うち常勤(※)

医師

1,181 647

歯科医師

28 27

薬剤師

100 97

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

保健師  
 看護師  
 准看護師  
 理学療法士  
 作業療法士  
 視能訓練士  
 言語聴覚士  
 義肢装具士  
 診療放射線技師  
 臨床検査技師  
 衛生検査技師  
 臨床工学技士  
 管理栄養士  
 栄養士  
 社会福祉士  
 精神保健福祉士  
 介護福祉士  
 保育士

0	0
1,218	1,164
0	0
28	22
16	10
9	9
11	7
0	0
68	65
100	89
0	0
30	30
17	16
0	0
9	9
3	3
0	0
5	3

みなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医  
 日本小児血液・がん学会 指導医  
 日本小児血液・がん学会 暫定指導医  
 日本小児血液・がん学会 認定外科医  
 日本小児外科学会 専門医  
 日本小児外科学会 指導医  
 日本小児科学会小児科 専門医  
 日本小児神経学会 小児神経専門医  
 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門  
 日本病理学会 病理専門医  
 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医  
 がん治療認定医機構 がん治療認定医  
 がん治療認定医機構 暫定教育医  
 日本放射線腫瘍学会 認定医  
 日本緩和医療学会 緩和医療専門医  
 日本緩和医療学会 緩和医療認定医  
 日本看護協会 がん看護専門看護師  
 日本看護協会 小児看護専門看護師

5	5
4	4
0	0
3	2
5	4
2	2
35	21
4	3
34	12
6	6
11	5
85	58
0	0
25	18
1	1
0	0
6	6
1	1

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 地域看護専門看護師  
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師  
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師  
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師  
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師  
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師  
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師  
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師  
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師  
 日本臨床細胞学会 細胞検査士  
 日本医学放射線学会 医学物理士  
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師  
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士  
 一般社団法人 日本病態栄養学会/  
     公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士  
 一般社団法人日本人類遺伝学会  
     及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー  
 一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー  
 チャイルドライフスペシャリスト  
 ホスピタルプレイスペシャリスト

0	0
4	4
4	4
0	0
0	0
1	1
4	4
3	3
5	5
6	6
13	13
3	3
6	6
11	11
3	3
2	2
1	1
0	0

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

1 診療体制		A : 必須 B : 望ましい - : 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない				
<b>(1) 診療機能</b>							
<b>① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供</b>							
ア	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	8	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	専門とするがんについて別紙2に記載すること。		別紙2		9		
イ	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めており、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。	A	はい	(はい/いいえ)	10	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	カンサーボードの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）	-	61	回	11	<input checked="" type="checkbox"/>	
ウ	小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	12	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	-	はい	(はい/いいえ)	13	<input checked="" type="checkbox"/>	
	長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。		別紙3		14		
エ	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	15	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。		別紙4		16		
オ	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい/いいえ)	17	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カ	治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。	B	はい	(はい/いいえ)	18	<input checked="" type="checkbox"/>	
	生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。		別紙5		19		
キ	保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	20	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>② 薬物療法の提供体制</b>							
ア	薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。	A	はい	(はい/いいえ)	22	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。		別紙6		23		
<b>③ 緩和ケアの提供体制</b>							
ア	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	25	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

チェック欄に未入力なし

Aの充足状況



	緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。		別紙8		27		
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	28	<input checked="" type="checkbox"/>	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。		別紙9		29		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	30	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	24	回	31	<input checked="" type="checkbox"/>	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	32	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		33		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	34	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	35	<input checked="" type="checkbox"/>	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。		別紙10		36		
<b>④ 病病連携・病診連携の協力体制</b>					37		
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	38	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。		別紙11		39		
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	40	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	41	<input checked="" type="checkbox"/>	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	42	<input checked="" type="checkbox"/>	
<b>⑤ セカンドオピニオンの提示体制</b>					43		
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	44	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。		別紙12		45		
<b>⑥ その他</b>					46		
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい/いいえ)	47	<input checked="" type="checkbox"/>	
<b>(2) 診療従事者</b>					48		
用語の定義: 専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。					49		
<b>① 専門的な知識および技能を有する医師の配置</b>					50		

ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。

A  人  51

	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	21	人	52	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	20	人	53	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	20	人 1人以上	54	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	20	人	55	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	20	人	56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	20	人	57	✓	
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	4	人 1人以上	58	✓	○
	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	4	人	59	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	2	人 1人以上	60	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	2	人	61	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	6	人	62	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	6	人	63	✓	
	受講率	-	100.0	%	64		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	1	人	65	✓	
	受講率	-	16.7	%	66		
	小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	95	人	67	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	27	人	68	✓	
	受講率	-	28.4	%	69		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	70	✓	
	受講率	-	3.2	%	71		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	329	人	72	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	200	人	73	✓	
	受講率	-	60.8	%	74		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	75	✓	
	受講率	-	0.0	%	76		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	28	人	77	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	2	人	78	✓	
	受講率	-	7.1	%	79		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	✓	
	受講率	-	0.0	%	81		
	施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	185	人	82	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	35	人	83	✓	
	受講率	-	18.9	%	84		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
	受講率	-	0.0	%	86		
	病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	87	✓	
	病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	

エ 病理診断に携わる医師の人数。

- 6 人 89

	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	6	人	1人以上	90	✓	○
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	6	人		91	✓	
<b>② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置</b>								
	ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	10	人	1人以上	93	✓	○
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	10	人		94	✓	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	4	人	1人以上	95	✓	○
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	4	人		96	✓	
	イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	24	人		97	✓	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	18	人	1人以上	98	✓	○
	ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	3	人		99	✓	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	3	人	1人以上	100	✓	○
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	2	人		101	✓	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	1	人		102	✓	
	エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	6	人		103	✓	
	オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	7	人		104	✓	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	1	人		105	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	3	人		106	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	1	人		107	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する社会福祉士の人数	-	1	人		108	✓	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	1	人		109	✓	
<b>③ その他</b>								
	ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)		111	✓	
	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい/いいえ)		112	✓	○
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)		113	✓	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい/いいえ)		114	✓	
<b>(3) 医療施設</b>								
<b>① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置</b>								
	ア 放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい/いいえ)		117	✓	○
	イ 集中治療室を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)		118	✓	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集集中治療室(ICU)の数	-	16	床		119	✓	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集集中治療室(PICU)の数	-	0	床		120	✓	

ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)	121	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況について別紙13に記載すること。		別紙13		122		

	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14	123		
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	5	回	124	<input checked="" type="checkbox"/>
<b>② 敷地内禁煙等</b>						
	敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)	126	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	敷地内は全面禁煙である。	-	はい	(はい/いいえ)	127	<input checked="" type="checkbox"/>
<b>(4) 診療実績</b>						
	① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	129	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	130	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	131	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15		132	
<b>(5) その他</b>						
	① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	134	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい	(はい/いいえ)	135	<input checked="" type="checkbox"/>
	特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい	(はい/いいえ)	136	<input checked="" type="checkbox"/>
	② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	137	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	-	はい	(はい/いいえ)	138	<input checked="" type="checkbox"/>
	日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	-	はい	(はい/いいえ)	139	<input checked="" type="checkbox"/>
	③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい	(はい/いいえ)	140	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。	-	はい	(はい/いいえ)	141	<input checked="" type="checkbox"/>
	配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	1	人	142	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	3	人	143	<input checked="" type="checkbox"/>
	(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。	-		(はい/いいえ)	144	
<b>2 研修の実施体制</b>						
	小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	146	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16		147	
<b>3 情報の収集提供体制</b>						
<b>(1) 相談支援センター</b>						
	小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	150	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		151		
相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。		別紙17		152		
相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。		別紙18		153		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。		別紙19		154		
① 「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	155	✓	○
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	156	✓	○
③ 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	157	✓	○
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	158	✓	
小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161	✓	○
アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	87	件	162	✓	
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	163	✓	○
イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	7	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	165	✓	○
ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	7	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	167	✓	○
エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	423	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	50	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	170	✓	○
オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	158	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	172	✓	○
カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	3	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	174	✓	○
キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	29	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	176	✓	○
クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	189	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	178	✓	○
ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	29	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することを行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	180	✓	○

この相談件数(平成30年1月1日～12月31日)

91 件

181

**(2)院内がん登録**

①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)	183	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②	院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	184	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③	院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	1	人 1人以上	185	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	うち専従者の人数	-	1	人	186	<input checked="" type="checkbox"/>	
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)	187	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④	院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい/いいえ)	188	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤	適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい/いいえ)	189	<input checked="" type="checkbox"/>	
⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい/いいえ)	190	<input checked="" type="checkbox"/>	
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい/いいえ)	191	<input checked="" type="checkbox"/>	
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	192	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**(3)診療実績、診療機能等の情報提供**

	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	194	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		195		

**(4)その他**

	地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21		197		
--	--	--	------	--	-----	--	--

**4 臨床研究に関すること**

	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)	199	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	200	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	201	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		202		
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	203	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		204		
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい	(はい/いいえ)	205	<input checked="" type="checkbox"/>	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		206		
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	207	<input checked="" type="checkbox"/>	
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)	208		

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。	別紙22		209
(5) 臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B はい	(はい/いいえ)	210 <input checked="" type="checkbox"/>

臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	20	人	211	<input checked="" type="checkbox"/>	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。		別紙23		212		
臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	31	件	213	<input checked="" type="checkbox"/>	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	23	件	214	<input checked="" type="checkbox"/>	
治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	4	件	215	<input checked="" type="checkbox"/>	
<b>5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備</b>						
(1) 保育士を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	217	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保育士の人数	-	5	人	218	<input checked="" type="checkbox"/>	
保育士のうち常勤の人数	-	3	人	219	<input checked="" type="checkbox"/>	
(2) 病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)	220	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい/いいえ)	221	<input checked="" type="checkbox"/>	
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい/いいえ)	222	<input checked="" type="checkbox"/>	
病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい/いいえ)	223	<input checked="" type="checkbox"/>	
高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい/いいえ)	224	<input checked="" type="checkbox"/>	
(3) 退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)	225	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24		226		
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	227	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい/いいえ)	228	<input checked="" type="checkbox"/>	
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい/いいえ)	229	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部屋数	-	33	部屋	230	<input checked="" type="checkbox"/>	
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	いいえ	(はい/いいえ)	231	<input checked="" type="checkbox"/>	
長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25		232		
(6) 家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	233	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	234	<input checked="" type="checkbox"/>	
<b>6 PDCAサイクル</b>						
(1) 自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい/いいえ)	236	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26		237		
(2) これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	238	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		239		
<b>7 医療安全体制</b>						
(1) 組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	241	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	242	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。

A

はい

(はい/いいえ)<sup>243</sup>



<p>(4) 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。</p>	-	はい	(はい/いいえ)	244	✓	
<p>当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。</p>						
<p>① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。</p>	A	はい	(はい/いいえ/-)	246	✓	○
<p>② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。</p>	A	はい	(はい/いいえ/-)	247	✓	○
<p>③ 提供した医療について、事後評価を行っている。</p>	A	はい	(はい/いいえ/-)	248	✓	○
<p>(5) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。</p>	A	はい	(はい/いいえ)	249	✓	○
<p>医療安全体制について別紙27に記載すること。</p>		別紙27		250		

## 先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日)

先進医療窓口情報							
先進医療の実施							(実施しています／実施していません)
先進医療A	問い合わせ窓口						(窓口があります／窓口がありません)
	窓口名						
	技術名						
	電話番号	代表		内線			
		直通					
	対象となる病名・病状						
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)					件	
先進医療B							(窓口があります／窓口がありません)
先進医療B	問い合わせ窓口						(窓口があります／窓口がありません)
	窓口名						
	技術名						
	電話番号	代表		内線			
		直通					
	対象となる病名・病状						
実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)					件		

# 各種小児がんの情報

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄  
に未入力なし

## 小児脳腫瘍

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

集学的治療の実施状況  (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年実績(あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容			
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		治療内容	治療実績	医師の専門分野			
見出し	アドレス																		
1 脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニット外来	16	16	状況	○	○	○	○	○	○	×				京大病院がんセンターの特徴は、そのがんを専門とする内科医・外科医・放射線治療医、さらに、病理診断医・放射線診断医ほか各種医療スタッフが一同に会して検討を行う「各臓器別がんユニット」を通じて治療方針を決定している点です。そのような患者さんが来院された脳腫瘍については、脳神経外科、放射線治療科と小児脳腫瘍ユニットを形成し、診療にあたっています。週1回火曜日の午後に、小児脳腫瘍外来を行っています。ここでは小児科、脳神経外科、放射線治療科の医師が同じ場所で外来を行い、その場でお互いコミュニケーションで治療困難な脳血管障害への治療(開頭手術、血管内治療)を積極的に行っています。脳腫瘍に対しては外科手術と放射線治療、化学療法を組み合わせた集学的治療を行い、難治性てんかんやパーキンソン病など機能的神経疾患にも積極的に取り組んでいます。がんは日本人の死因の第一位であり、その克服は国民的課題の一つとなっています。また、命を長らえるだけでなく社会復帰の可能なQOLの高い治療法の社会的要請が強まっています。放射線治療科では、放射線療法における最新技術を駆使して	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニット	<a href="http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=13">http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=13</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	あり	あり	あり	あり	なし	なし				ユニットとは		<a href="http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=9#unit">http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=9#unit</a>	掲載なし	掲載なし	掲載なし	
2 小児科	32	10	状況	○	○	×	×	×	×	×			小児科ホームページ	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/index.html">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/index.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし				腫瘍グループ	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3 脳神経外科	21	3	状況	○	○	×	×	×	×	×			脳神経外科	<a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/department/clinical/neurosurgery.html">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/department/clinical/neurosurgery.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし					<a href="http://neurosurg.kuhp.kyoto-u.ac.jp/">http://neurosurg.kuhp.kyoto-u.ac.jp/</a>				
4 放射線治療科	17	3	状況	×	×	○	○	○	○	×			放射線治療科	<a href="http://radiotherapy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/#">http://radiotherapy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/#</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	なし	なし	あり	あり	あり	なし	なし					<a href="http://">http://</a>				
5			状況												<a href="http://">http://</a>				
			実績													<a href="http://">http://</a>			

その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください	治療名	治療内容
他の治療(1)		
他の治療(2)		
他の治療(3)		

治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日	胚細胞腫、神経鞘腫(グリオーマ)、脊髄腫瘍、脳室内腫瘍、その他脳腫瘍
---------------------------------	------------------------------------

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○: 専門とするが/ ×: 診療を実施していないが)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数		治療の実施状況 (○: 実施可 / ×: 実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日											各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容					
								体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)		他の治療(2)		他の治療(3)	治療内容	治療実績	医師の専門分野		
																見出し	アドレス				
1	小児がんユニット	9	1	○	○	○	○	○	○	○	○	×				小児がんユニットでは、小児科、外科系各科、放射線治療科が連携して、迅速で正確な診断、治療方針の決定をし、化学療法、手術、放射線治療といった異なる治療法を切れ目なく円滑に行っています。各部署の高い専門性を生かすすべての小児がんに対応することが	小児がんユニット診療案内	<a href="http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106">http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	眼科	13	1	○	○	○	○	○	○	○	×				病気の治療をするということは患者さんやご家族にとって非常に大きな負担です。私たちはすべての患者さんが安心して最高の治療が受けられるように全力で取り組んでいます。なににか気になることがあればいつでも相談して下さい。	眼科	<a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/department/clinical/ophthalmology.html">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/department/clinical/ophthalmology.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3																		<a href="http://">http://</a>			
4																		<a href="http://">http://</a>			
5																		<a href="http://">http://</a>			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名											治療内容							
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日			網膜芽細胞腫																		

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数		治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日											当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ								
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術				化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 小児がんユニット	9	5	○	○	○	○	○	○	○	×	×					小児がんユニットでは、小児科、外科系各科、放射線治療科が連携して、迅速で正確な診断、治療方針の決定をし、化学療法、手術、放射線治療といった異なる治療法を切れ目なく円滑に行っています。各部署の高い専門性を生かす。軟部腫瘍を含めすべての小児が	小児がんユニット診療案内	<a href="http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106">http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 小児科	32	4	○	○	○	○	○	○	○	×	×				骨腫瘍、軟部腫瘍はまれな疾患でかつ種類が多いため、一般の病院や医院でははっきりした診断がつきにくいことがあります。良性悪性を問わず、お気軽にご相談ください。	小児科 固形腫瘍グループ	<a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3 整形外科	17	1	○	○	○	○	○	○	○	×	×				骨腫瘍、軟部腫瘍はまれな疾患でかつ種類が多いため、一般の病院や医院でははっきりした診断がつきにくいことがあります。良性悪性を問わず、お気軽にご相談ください。	整形外科ホームページ	<a href="http://www.seikei.uhp.kyoto-u.ac.jp/">http://www.seikei.uhp.kyoto-u.ac.jp/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
4																		<a href="http://">http://</a>			
5																		<a href="http://">http://</a>			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名						治療内容												
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日			骨肉腫、ユーイング肉腫																		

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成30年1月1日~12月31日									当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
					体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1 小児がんユニット 外来	9	8	状況 ○ 実績 なし	○	○	○	×				小児がんユニットでは、小児科、外科系各科、放射線治療科が連携して、迅速で正確な診断、治療方針の決定をし、化学療法、手術、放射線治療といった異なる治療法を切れ目なく円滑に行っています。各部署の高い専門性を生かして、診断腫瘍を含めすべての小児がん小児固形腫瘍の診療には、外科系診療科、放射線治療科、放射線診断科、病理部、理学療法部など関連部署と十分な連携をとりながら、集学的治療を行うことが重要です。当院では、各診療科がもつ大学病院ならではの高い医療技術を用いて小児固形腫瘍の診療に、肝臓の外科的治療では、肝臓を切除し、腫瘍を外科的に完全に摘出することが必要ですが、術前に化学療法を行っても切除不能な場合も少なくありません。このような場合には、肝移植を行うこととなります。当院の小児外科・移植外科肝移植放射線は、エナジーの一種で、あなたの病気を手術せずに治す、非常に効果のあるものです。大きな装置のある部屋でお一人で治療を受けていただくこととなりますが、放射線は熱くもありませんし、その間スタッフがテレビカメラでずっとあなたを別室で見守っています。	小児がんユニット診療案内	<a href="http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106">http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
2 小児科	32	5	状況 ○ 実績 あり	○	○	×	×	×				小児科ホームページ	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/index.html">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/index.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
												腫瘍グループ	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3 小児外科	3	1	状況 ○ 実績 あり	○	○	×	×	×				小児外科	<a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/department/clinical/surgery_ped.html">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/department/clinical/surgery_ped.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
												腫瘍グループ	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/pediatrics/group/pdf/ketsueki/02.pdf</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
4 放射線治療科	17	2	状況 × 実績 なし	×	×	○	○	×			放射線治療科	<a href="http://radiotherapy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/#">http://radiotherapy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/#</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
5			状況 実績										<a href="http://">http://</a>					
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名							治療内容							
他の治療(1)																		
他の治療(2)																		
他の治療(3)																		
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日~12月31日				神経芽細胞腫、肝芽腫、盲腸癌、下垂体腫瘍、精巣癌														

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ			
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容		
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野
1 小児がんユニット	9	7	状況 ○ 実績 なし	○	○	○	○	○				小児がんユニットでは、小児科、外科系各科、放射線治療科が連携して、迅速で正確な診断、治療方針の決定をし、化学療法、手術、放射線治療といった異なる治療法を切れ目なく円滑に行っています。各部署の高い専門性を生かす。軟部腫瘍を含めすべての小児がん治療において、最新の医療技術、外来で可能な治療については、京大病院の外来化学療法部と連携して治療を行っています。積真棟一階の一角には小児専用の「子供ゾーン」が設けられ、明るいレイアウトと看護スタッフが患者さんに安心して外来治療を受けて頂けるよう、放射線はエネルギーの一種で、あなだの病気を手術せずに治す、非常に効果のあるものです。大きな装置のある部屋でお一人で治療を受けていただくことになりませんが、放射線は熱くも痛くもありませんし、その間スタッフがテレビカメラでずっとあなたを別室で見守っています。	小児がんユニット診療案内	<a href="http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106">http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=106</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 小児科	32	5	状況 ○ 実績 あり	○	○	○	○	×	×	○			小児科ホームページ	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/index.html">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/index.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 放射線治療科	17	2	状況 × 実績 なし	×	×	×	×	○	○				血液腫瘍診療	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/group/pdf/ketsueki/01.pdf">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pediatrics/group/pdf/ketsueki/01.pdf</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4			状況 実績										放射線治療科	<a href="http://radiotherapy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/#">http://radiotherapy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/#</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
5			状況 実績											<a href="http://">http://</a>			
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名							治療内容						
他の治療(1)				CAR-T細胞療法							従来の治療では根治が極めて難しい再発/難治の急性リンパ性白血病に対するキメラ受容体抗原遺伝子導入T細胞細胞療法。						
他の治療(2)																	
他の治療(3)																	
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫、白血病													

## 長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙3を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

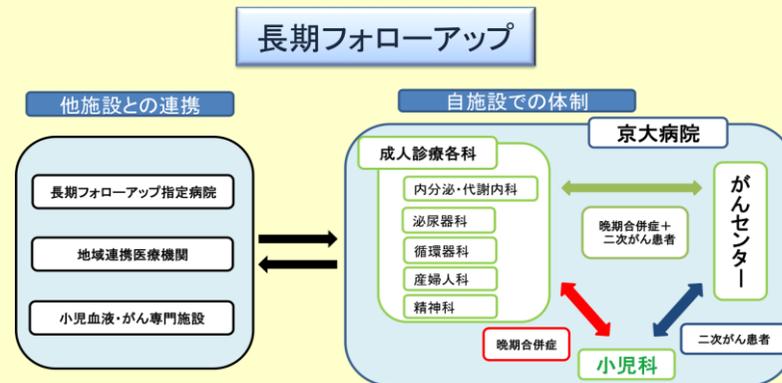
### 1. 自施設内での体制：

京都大学では、小児科と、成人各科からなる京大がんセンターが連携して、晩期障害患者の診断・フォロー及び二次がん患者治療を行っている。(図参照)

2010年10月より、毎週火曜日の午後に、長期フォローアップ外来を正式に発足させ、診療を継続して行っている。晩期障害のうち、性腺機能障害については、産婦人科や泌尿器科、低身長や他の内分泌障害については小児内分泌専門医ならびに内分泌代謝内科、心臓合併症については小児循環器専門医ならびに循環器内科が小児科と併診でフォローを行っている。化学療法終了後の卵巣機能不全に対し、卵子保存を行い、妊孕性維持にも努めている。心理的な面では外来ナース、がんサポートチーム、がん相談支援室、心理療法外来における心理士によるフォローアップなど、多職種によるフォローを行っている。とくにがん相談支援室においては、就学のみならず就職に関する相談、サポートを行っている。人間健康科学作業療法科との連携で認知機能検査も行い、認知機能障害や発達障害の患者を対象に、作業療法を行うとともに、近年は精神科と共同して、成人の高次脳機能障害に対する研究にも参加している。

### 2. 他施設との連携：

近畿ブロックに存在する京都大学小児科関連病院のみならず、長期フォローアップの実績の多い他施設や小児血液・がん学会専門認定施設などの連携する診療機関と協力して長期フォローアップを行っている(図参照)。血液腫瘍を担当するスタッフ全員が日本小児がん研究グループ(JCCG)で委員・委員長を務めるなど活発に活動を行っていることから、全国より多くの紹介患者が受診している。疾患も多岐にわたり、急性白血病や再生不良性貧血などの造血器疾患に限らず、脳腫瘍、肝腫瘍、骨軟部腫瘍をはじめとする様々な固形腫瘍を幅広く診療している。さらに、当科の小児血液・腫瘍医が天津赤十字病院小児科、天理よろづ相談所病院小児科に出向き、専門外来を開設して当院と連携しながら、滋賀県・奈良県など近隣地域での小児がん患者の長期フォローアップにもあたっている。



## AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制(自施設・他施設の成人診療科との連携状況等)について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

AYA世代の患者に対する診療は、年齢で診療科が一律に決まってしまうことが多い。京大病院では従来より、小児科、放射線治療科、脳神経外科、整形外科と定期的に合同カンファレンスを行い患者情報の共有を図ってきたが、小児がん拠点病院の指定を受けてからは、さらに京大病院がんセンターとの連携を密にし、病理診断科・小児外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・眼科、耳鼻咽喉科、眼科、などの成人各科が参加する小児がんユニットを立ち上げた。通じて、患者発生時にはすぐに合同で情報共有やカンファレンスを行う体制により、脳腫瘍や骨軟部腫瘍、その他の小児がんのAYA世代の患者の診療に初診時から小児科医が関わるのが可能になり、化学療法の立案、遂行とタイムリーな外科手術や放射線治療を行える体制が確立した。さらに、AYA世代特有のニーズに対応するため、院内のがん診療に携わる部署が集まるがん診療合同委員会において、AYA世代特有の問題点を共有するとともに、利用可能なリソースなどの公知に努めている。同委員会には各診療科のほか、薬剤部、看護部、がん相談支援室、治験管理部など、AYA世代の治療に関わる多く部署が参画している。

また、AYA世代向けの自習室を整備し、院内学級から教師の派遣を受け、高校生向けに週4回の手厚い学習サポートを行っている。同時に同じく小児がん拠点病院である京都府立医科大学と共同して京都府に働きかけ、京都府からの学習サポートを得られるよう政策提言するなど、学習支援の拡充に注力してきた結果、高校での単位認定を取得した入院児童の例もあり、モデルケースとして全国的に注目されている。また、がん相談支援室では就学に対する相談も行っており、年齢層の高いAYA世代への支援も行っている。

■ AYA世代用スペース・学習室



■ 図書コーナー



## 生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名:

時期・期間: 令和元年9月1日現在(患者数は平成30年1月1日～12月31日)

### ■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	3	OK
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	20	
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	0	

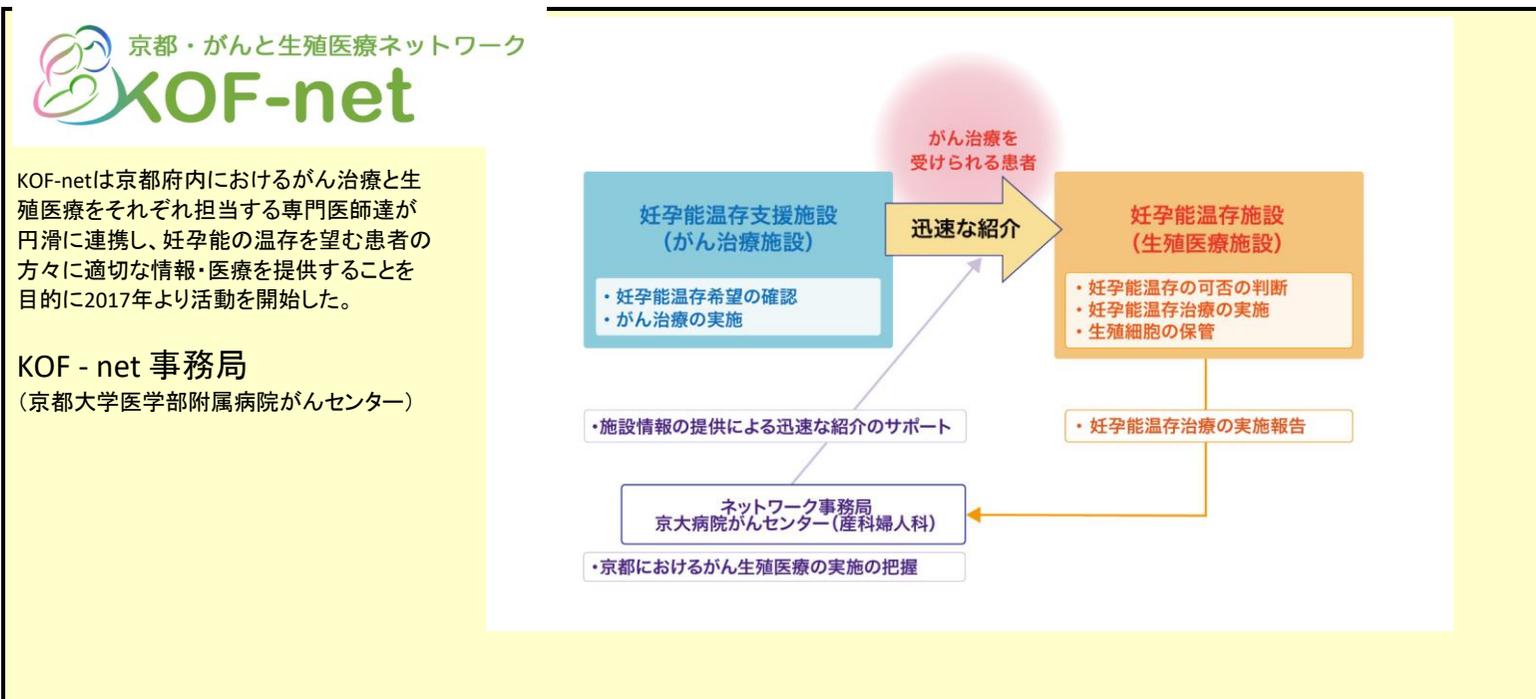
### ■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無  (あり/なし)

ファイル形式  (ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。



## 薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

開催された委員会の総件数: 2 OK

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	がん化学療法レジメン管理委員会（メンバー60名）		OK
委員会の開催頻度	年2回		
委員会のメンバー	職種	役職	
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長	
1	腫瘍内科医師(6名)	教授(1)＝委員長、准教授(2)、助教(2)、医員(1)	
2	血液内科医師(5名)	講師(1)、助教(4)、	
3	脳神経外科医師(1名)	講師	
4	小児科医師(1名)	助教	
5	小児外科医師(1名)	助教	
6	その他診療科医師(16名)	肝胆膵移植外科、呼吸器外科、呼吸器内科、産科婦人科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、消化管外科、消化器内科、腎臓内科、整形外科 など	
7	薬剤師(9名)	薬剤部副部長(1)、薬剤部(講師1)、薬剤部主任(3)、薬剤師(3)、安全管理室(助教1)	
8	看護師(19名)	副看護部長(1)、看護師長(2)、副看護師長(15)、看護師(1)	
9	検査技師(1名)	検査主任	
10	事務(1名)	医務課課長補佐	

## 緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数： 13

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

OK

緩和ケアチームの名称		緩和医療科		
職種	常勤／非常勤	専門分野	資格等	
例	医師、看護師、薬剤師	麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。	
1	身体症状の緩和に携わる医師（緩和ケアセンター長）	常勤 緩和医療科	日本緩和医療学会暫定指導医(2009年)	
2	精神症状の緩和に携わる医師	常勤 緩和医療科		
3	身体症状の緩和に携わる医師	常勤 緩和医療科	日本緩和医療学会緩和医療専門医(2016年)	
4	精神症状の緩和に携わる医師	常勤 緩和医療科		
5	身体症状の緩和に携わる医師	常勤 緩和医療科	日本がん治療認定医機構がん治療認定医(2012年)	
6	身体症状の緩和に携わる医師	常勤 緩和医療科		
7	看護師（ジェネラルマネージャー）	常勤 看護師		
8	看護師	常勤 看護師	がん看護専門看護師(2013年) 緩和ケア認定看護師(2009年)	
9	看護師	常勤 看護師	がん看護専門看護師(2018年) 緩和ケア認定看護師(2009年)	
10	他 薬剤師2名、医療ソーシャルワーカー1名、作業療法士1名	常勤		

## 緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

(あり/なし)

ファイル形式

パワーポイント

(ワード/ー太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

当院緩和ケアチームは、「診断時からの緩和ケア」の実践を目標としており、がん診断時からの患者・家族の苦痛緩和、終末期の看取りのケア、グリーフケアに関して、小児科と連携して診療を行っている(図1)。

チームへの紹介は大きく2つの経路がある(図2)。

a)小児科入院中のがん患者において、痛み・吐き気・呼吸困難などの身体症状、不安・不眠などの精神症状、家族の不安・抑うつなどの問題が生じた際には、担当医から緩和ケアチームに依頼をする。なお症状のスクリーニングに自記式質問票(エドモントン症状評価システム)を使用し、紹介症例の抽出に利用している。

b)週に1回、小児科病棟スタッフ、緩和ケアチーム(医師、看護師)、心理士、ソーシャルワーカーなどで構成される多職種カンファレンスを開催しており、そこで問題症例に対して情報を共有し、問題点・目標を明確化したうえで、必要な症例に緩和ケアチームの介入を依頼している。

緩和ケアチームは依頼に対して迅速に対応し、原則として依頼した同日(困難な場合は翌日)に、小児科担当医と緩和ケアチームでミーティング・チームによる診察が行われる。症状アセスメント・マネジメント、ケアの提案が主な介入内容となる。初回診察後も、小児科と緩和ケアチームとで連携し、継続的に診療に関わっている。また必要症例に関しては緩和ケアチームの精神科医師による家族ケアも行っている。

## 緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている (はい/いいえ)	はい			
2	緩和ケア外来の名称	緩和医療科外来			
3	担当診療科名	緩和医療科			
4	主な診療内容・特色	身体症状、精神症状の緩和			
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ	見出し	緩和ケアチーム診療案内		
		アドレス	<a href="http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=10">http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/?p=10</a>		
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)	はい			
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)		はい	OK	
	窓口の名称	地域医療連携室			
	電話	代表	(内線)		直通 075-751-3110
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)		はい	OK	
	窓口の名称	地域医療連携室			
	電話	代表	(内線)		直通 075-751-3110

## 緩和ケア病棟の状況

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している					
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理					
3	小児の入院可否					
4	緩和ケア病棟の形式					
5	緩和ケア病棟の病床数	床				
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し				
		アドレス	http://			
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人)  ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1	

■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
10	窓口の名称									
	電話	代表		(内線)				直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://				
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
11	窓口の名称									
	電話	代表		(内線)				直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://				
12	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室								
13	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など								

## 地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。(例：診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。)2枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙11を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

### 当院を中心とした強固な連携協力体制

当院は、3つの小児血液・がん専門医研修施設を含む、近畿ブロック全域をカバーする関連基幹病院とネットワークを形成するとともに、小児がん診療におけるハブ病院としての機能を果たしている。(右図) 関連病院とはWeb会議を定期的に行っており、従来からの電話・メール・郵便による情報共有に加えて詳細な事前検討を行うことで、診療に切れ目なく連携がとれる体制を構築している。退院後、患者の住まう地域の医療機関と共同してフォローアップする体制も構築している。特に、奈良県や滋賀県においては、地域の医療機関での小児がん患者のフォローアップを充足する目的で、天理よろづ相談所病院小児科、大津赤十字病院の血液外来に医師を派遣し、小児がん患者の診療にあたっている。

地域の連携協力体制において、当院は

他の施設では実施が困難な高度な外科治療、放射線治療を要する症例、難治性・再発血液腫瘍疾患で造血細胞移植を要する症例、難治性・再発固形腫瘍症例、固形腫瘍に対する自家末梢血幹細胞採取、大量化学療法+自家末梢血幹細胞移植を要する症例、治験に参加する症例など、積極的に患者を受け入れ治療を行っている。

セカンドオピニオンの依頼に関しても、当院独自の「小児がんユニット」で協議することで、多角的に検討して応需している。小児がんユニットには成人診療科の医師も含まれ、小児腫瘍医を中心に、病院全体で小児がんの治療にあたる体制を確立している。

今後も引き続き、小児専門医療機関、大学病院のみならず、近畿一円の小児がん診療施設との連携を推進してネットワークを発展させ、小児がんの迅速な診断と治療に地域の医療機関とともに取り組んでいく。



## 地域の医療機関との連携実績

小児がんの子どもと家族は可能な限り慣れ親しんだ地域で、他の子どもと同じ生活・教育環境の中、標準的な医療を受けられるのが望ましい。それとともに、治療困難時には安心して先駆的で高度な医療を受けられる環境が必要である。そのような環境をつくるために、小児がん拠点病院である当院は、地域の様々な医療機関と連携している。

### 紹介元医療機関：20歳未満のがん患者、2017年実績より抜粋

京都市立病院	滋賀県立小児保健医療センター	京都警察病院	兵庫県立こども病院
京都第二赤十字病院	天理よろづ相談所病院	宇治徳洲会病院	京都府立医科大学附属病院
医仁会武田総合病院	いまい小児科クリニック	三重大学医学部附属病院	京都桂病院
大津赤十字病院	日本赤十字社和歌山医療センター	滋賀県立成人病センター	さとうこどもクリニック
日本パプテスト病院	ハシイ産婦人科	静岡県立こども病院	大阪医科大学付属病院

### 紹介先医療機関：20歳未満のがん患者、2017年実績より抜粋

天理よろづ相談所病院	兵庫県立こども病院	大津赤十字病院	京都桂病院
大阪市立総合医療センター	倉敷中央病院	舞鶴共済病院	医仁会武田総合病院
京都府立医科大学附属病院	関西医科大学附属病院	福井大学附属病院	京都第一赤十字病院
日本赤十字社和歌山医療センター	大阪赤十字病院	兵庫県立尼崎医療センター	滋賀県立小児保健医療センター
いまい小児科クリニック	京都岡本記念病院	北野病院	福井赤十字病院

## 在宅医療機関との連携

小児がん患者の在宅医療については、京都市内においては、当院地域ネットワーク医療部のソーシャルワーカー等による病診連携業務を通じ、複数の在宅医療機関との連携が成立している。これらの在宅医療機関とは、定期フォローおよび急変時の受け入れについて役割分担を明確にし、良好な連携医療が可能となっている。

また、地域の訪問看護ステーションとも連携し、当院緩和ケアセンターと協力して、小児がん患者の在宅での看取りや、小児在宅医療の勉強会を開催する等、地域の医療従事者のスキルアップもはかりながら、取り組みを進めている。

その結果、徐々にではあるが、小児がん患者の在宅医療を受け入れる施設が増えており、今後、患者と家族が望む形で過ごすことができるよう、地域の

## 小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識 および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：京都大学医学部附属病院

時期・期間：令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

### ■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来を希望される方へ	アドレス	<a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient/second_opinion.html">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient/second_opinion.html</a>		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。

※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄  
に未入力な  
し

### 小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	2	件	OK
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	小児科	○	○	○	○		
2人目	脳神経外科	○	○	○	○		
3人目	放射線治療科	○	×	×	○		
4人目							
5人目							

### 小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応不可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	セカンドオピニオン枠は設けていません。眼科外来を受診下さい						
2人目							
3人目							
4人目							
5人目							

### 小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児科	○	○	○	○			
2人目	整形外科	○	○	○	○			
3人目								
4人目								
5人目								

### その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	2	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児科	○	○	○	○			
2人目								
3人目								
4人目								
5人目								

### 小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	7	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児科	○	○	○	○			
2人目	血液・腫瘍内科	○	○	○	○			
3人目								
4人目								
5人目								

## 小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場(プレイルーム等)やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場(患者サロン等)について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**2枚以内におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

### 小児がん患者の遊びの場

小児病棟内にプレイルームを配置し、主として年少児への遊びの場を提供している。プレイルーム内には絵本や年少児向けの書籍、玩具や遊具などが常備され自由に遊べるほか、ボランティア団体「にこにこトマト」による様々なアクティビティがほぼ毎日提供されており、子供たちの日常の遊びの場として機能している。

小児病棟には病棟保育士が3名配置され、主として就学前患児の遊びを支援している。病棟保育士は看護師と連携して、患児の病状や付き添い家族の状況を考慮した上で、対象となる患児にプレイルームで定期的に保育を行っている。個室隔離中の患児へは個別に訪室して遊びを通じて保育を支援している。保育士の配置により、患児の遊びの機会が大きく増えたが、需要に適切に応えるべく、保育士、小児科医、看護師長で定期的に保育カンファレンスを持ち、問題点の検討、情報の共有を図っている。また、チャイルドライフスペシャリストは看護師、保育士が連携しながら、プレパレーション、遊びの提供、心理面へのサポートなど幅広い活動を行なっている。また、ホスピタルクラウンが月1回病棟を訪れ、各病室を回って子供たちにパフォーマンスを行うなど、さらに遊びの場を質的、量的に増やすことが出来るよう改善を続けている。

### 患者家族が語り合うための場

小児病棟に面談室があり、患者家族同士が話をしたり、面会に来た家族や友人と気兼ねなく時間が過ごせたりできるよう、テーブル、ソファ、遊び場を設置し、部屋全体を明るいつォンの配色にしている。病棟内にあるパントリーは、調理したり一緒に食べたりすることの出来るスペースであるが、常時患者とその家族に開放されており、こちらも患者家族や患者同士が語り合うことの出来る場となっている。また、小児科病棟と小児科外来をつなぐ通路の一角に広場「ほっこり」が設けられている。ここでは机や椅子が配置されており、各種疾患の説明パンフレットや一般図書・雑誌が貸し出されているなど、静かに読書をしたり休息をとれる場所として利用されている。

また毎月第2水曜の午前に集団指導室において患者家族が語り合える時間を共有するための交流会「チャイルドピア」を開催している。ここでは体操・アロマオイルハンドマッサージ・お茶会・タッチケア・クリスマスコンサートといったテーマに沿って会を開催している。またAYA世代の患者グループもあり楽しく語り合いや日頃悩んでいることなど分かち合っている。





### AYA世代の交流・勉強の場

AYA世代の患者に関しては、前述の場が利用できるほか、特に勉強の場として授業終了後の院内学級を利用するなどして静かな環境を提供している。

現在、別途専用のスペースを設けた。

### おもちゃ・図書・運動設備等について

プレイルーム等で使用する玩具や絵本等については病棟保育士が専門的な立場から小児の発達を促すものを選定しており、環境整備にも関わってもらっている。

図書に関しては年少児には主としてプレイルーム、年長～AYA世代へは「ほっこり」で貸し出されているほか、パントリー前には病気の理解を促すパンフレットを配置して、アクセスしやすいように配慮している。運動を要する患者には積極的にリハビリテーションを導入し、必要に応じて理学療法士、医師、看護師、病棟保育士らによるリハビリカンファレンスを持って、特に長期入院の児へ対応できるようにしている。



## 小児がん患者およびその家族が語り合うための場

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数： 4

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員 の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ /家族のみ /患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	名称 相談支援センター 電話 XXX-XXXX-XXXX直通	
1	京都大学医学部附属病院 小児がん患者・家族交流 会「チャイルドピア」	チャイルドピア	あり	定期	月 1	小児がん	参加不可	患者・家族	日頃の思いを語り合える場の提供	名称 がん相談支援センター 電話 075-366-7505直通	
2	きょうとたんぼぼの会	根岸京子	あり	定期	月 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者・家族の情報交換の場の提供	名称 がん相談支援センター 電話 075-366-7505直通	
3	きょうとわたぼうしの会	きょうとたんぼぼの会	あり	定期	年 2	小児がん	参加可	家族のみ	小児がんのお子さんのご遺族の思いを分かち合う場の提供	名称 がん相談支援センター 電話 075-366-7505直通	
4	NANANAの会	新田美穂	あり	不定期	年 1	骨軟部腫瘍	参加不可	家族のみ	骨軟部腫瘍の患者・家族の交流会を開催している	名称 がん相談支援センター 電話 075-366-7505直通	
5										名称 電話	
6										名称 電話	
7										名称 電話	
8										名称 電話	
9										名称 電話	
10										名称 電話	

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称	本の広場 ほっこり						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	院内施設 案内 外来棟3階					
		アドレス	<a href="https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/facilities/outpatient_3f.html">https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/facilities/outpatient_3f.html</a>					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	入院中・通院中の方のみ	その他					
5	医療系の資料  冊数または種類の数  貸し出しの制限	図書		雑誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子	
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌			
		50冊以上	100冊以上	10種類未満	10種類未満	0	10種類未満	
		入院中の方のみ可	入院中の方のみ可	入院中の方のみ可	入院中の方のみ可		入院中の方のみ可	
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置なし		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	075-751-3111		(内線)			
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		ボランティア	19	人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書等が設置されている場の名称	がん相談支援センター 情報コーナー						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス	http://					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他					
5	医療系の資料  冊数または種類の数  貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子	
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌			
		50冊以上	50冊以上	10種類以上	10種類以上	10種類以上	10種類以上	
		入院中・通院中の方のみ可	入院中・通院中の方のみ可	入院中・通院中の方のみ可	入院中・通院中の方のみ可	貸し出し不可	入院中・通院中の方のみ可	
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター	コピー機			
		設置あり		設置なし	設置なし			
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表		(内線)				
		直通1	075-355-7505	直通2				
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		事務職員	1	人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施						

OK

OK

## 診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	16	固形腫瘍合計	26
ALL	9	神経芽腫瘍群	2
AML	3	網膜芽腫	1
まれな白血病	0	腎腫瘍	0
MDS/MPDのうちCML	0	肝腫瘍	1
MDS/MPDのうちCMLを除く	0	骨腫瘍	3
Non-Hodgkin Lymphoma	0	軟部腫瘍	7
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	1
その他のリンパ増殖性疾患	2	脳・脊髄腫瘍	11
組織球症(HLH)	0	その他(診断名も記載すること)	3(盲腸癌、下垂体腫瘍、精巣癌)
組織球症(LCH)	0		
その他の組織球症	1		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	1		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

## 小児がんに関する研修プログラムの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在（研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日）

### ■ 研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	16	OK
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	1	
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	1	
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	8	
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	5	
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	1	

### ■ 研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数：

3

OK

プログラム名	期間 例 2年	対象者 例 医師卒後 〇年～〇年	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先					プログラムの特徴
						自施設 (人)	自施設以外				
							大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)	その他 (人)	
1 小児血液・がん専門医養成コース	2年	卒後5～10年程度	3	2	12	0	0	1	1	10	小児科の後期研修を終えた者を対象に小児血液・がん専門医取得に必要な知識と技能の習得を目的とする。
2 小児血液・がん専門医強化コース	1年	卒後10～15年程度	1	1	3	0	0	0	3	0	小児血液・がんの臨床・研究を一定期間修めた者を対象にさらに深い知識と経験の習得を目的とする。
3 大学病院とマグネット病院との機能連携を基盤とした高度医療人養成プラン	1年	卒後2～4年程度	1	8	19	0	0	0	14	5	小児科後期研修医を対象とし、小児血液・がん診療に必要な基礎的知識・技能を習得する。
4											
5											

## 相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 あり

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称		がん相談支援センター						OK
相談支援センターのメンバー								
職種	常勤／非常勤	専従／専任／兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修	
				基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)		
1	看護師	常勤	専従(8割以上)	1	受講	受講	未受講	未受講
2	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	16	受講	受講	受講	受講
3	社会福祉士	非常勤	専従(8割以上)	12	受講	受講	受講	受講
4	事務員	非常勤	専従(8割以上)	2	未受講	未受講	未受講	未受講
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日) 1,023 件 OK

上記1件あたりの平均対応時間 平均 20 分 最短 5 分 最長 120 分 中央値 20 分

相談件数(令和元年6月1日～7月31日)

相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1 自施設の患者・家族	59	36	0	1	96
2 他施設の患者・家族	4	8	0	1	13
合計	63	44	0	2	109

相談支援内容	相談支援の対象者
※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄で掲載する予定です。	
例 がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1 社会保障	自施設と他施設の患者・家族
2 社会生活(就学・就労)	自施設と他施設の患者・家族
3 心理的支援	自施設と他施設の患者・家族
4 副作用に対するの支援	自施設と他施設の患者・家族
5 患者会・社会資源の情報提供	自施設と他施設の患者・家族

OK

## 相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。  
この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータロ/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

**【必須】**相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を**「1枚」、上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。

※横長の写真の方が収まりがよいです。

※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を**「別紙18相談支援センター画像」**として別に添付してください。

ファイル形式

JPEG

(PNG/JPEG/GIF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。



## 相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

1	<b>相談支援センターの名称</b>	がん相談支援センター					OK		
2	問い合わせ先電話番号	代表				(内線)			
	※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	直通1	075-366-7505						
		直通2							
		直通3							
3	<b>対面相談の実施（実施/未実施）</b>	実施					OK		
	予約の要否（必要/不要）	不要							
	<b>電話相談の実施（実施/未実施）</b>	実施					OK		
	相談用の電話番号	代表				(内線)			
		直通1	075-366-7505		直通2				
	予約の要否（必要/不要）	不要							
4	<b>FAX相談の実施（実施/未実施）</b>	未実施					OK		
	相談用のFAX番号 ※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	直通1			直通2				
		代表							
5	<b>電子メール相談の実施（実施/未実施）</b>	未実施					OK		
	相談用の電子メールアドレス ※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください	1							
		2							
5	相談員の職種・人数 ※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載	(例) 精神保健福祉士		2	人	ソーシャルワーカー(上記以外)		1	人
		看護師	1	人				人	
		社会福祉士	2	人				人	
		事務員	1	人				人	
						その他			人
						その他			人
6	<b>ピアサポーターによる対応（実施/未実施）</b>	未実施							OK
	具体的な活動内容								
6	<b>地域の患者会の情報提供の有無</b>	あり							OK
	提供可能な患者会の数	5							

7 上記患者会の参加対象者の疾患名 ※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)	*子どものがん
--	---------

## 小児がん患者団体との連携

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数: 5

OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体		具体的な連携の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)	
No.	団体名	団体の参加対象者	
1	チャイルドピア	当院で小児がん治療中の患者・家族	月1回患者家族交流会を開催している
2	きょうとたんぽぽの会	当院で小児がん治療中の患者・家族	相談員が月1回の定例会に参加している。特別行事開催時には、運営協力を行っている。
3	きょうとわたぼうしの会	小児がん遺族会	相談員が定例会に参加している。特別行事開催時には、運営協力を行っている。
4	NANANAの会	当院で小児がん治療中、治療後の小児骨軟部腫瘍の患者・家族	相談員が定例会に参加している。特別行事開催時には、運営協力を行っている。
5	ともいき京都 (AYA世代ミーティング)	小児がん・成人がんの治療中、治療後の15歳から39歳までの患者	年に4回患者交流会を開催している。運営協力を行っている。
6			
7			
8			
9			
10			

## 地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。  
 ※各項目200字以内で記載してください。

1	<p>小児がん拠点病院としてのメッセージ</p> <p>(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。</p>
	<p>当院では、京大がんセンターと連動して科の枠を越えた診療体制を構築しており、高度で安全な集学的医療を提供しています。当院の特徴は、他の多くの施設で実施困難な肝移植や肺移植などの移植医療を推進し、国内で先駆けてCAR-T細胞療法やクリニカルシーケンスによるゲノム医療など新規治療をいち早く取り入れている点です。また、ソーシャルワーカー、ボランティア団体や患者会と総体となって全人的医療を推進しています。</p>
2	<p>相談支援センターからのメッセージ</p> <p>(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介させていただきます。</p>
	<p>がん相談支援センターでは、がん患者さん・ご家族の皆様が、治療を受けながら困っておられること、生活の中で抱えておられる問題などお話を聞かせていただくことにより、悩みや気持ちの整理をお手伝いし、解決の糸口を一緒に考えます。がん情報コーナーとともに、お気軽にご利用ください。また、患者会のお世話や患者交流会の企画運営をしています。患者さんとそのご家族を対象とした勉強会も開催しています。</p>
3	<p>緩和ケアチームからのメッセージ</p> <p>(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。</p>
	<p>当院では、がんの治療を受けておられる患者さんやご家族に対して、主治医や担当看護師と協力して緩和ケアチームが活動しております。緩和ケアチームでは、さまざまな職種が協力して、患者さんやご家族の痛みをはじめとするつらい症状を和らげ、心のケアを行います。病気の状態に関係なく、体や心のつらさのある方は、どなたでも緩和ケアを受けることができます。</p>
4	<p>緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)</p>
	<p>(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。</p>

## 臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー(個人情報を記載しないよう注意すること) メンバー総人数: 114 OK

例	各部門名	各部門のメンバーの専門性・職種
	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	臨床研究総合センター 開発企画部	プロジェクトマネジメント、開発企画、製剤、毒性、文書管理、薬事、臨床試験管理
2	臨床研究総合センター 早期臨床試験部	CRC、安全性管理、開発企画、事務、臨床試験管理、臨床心理
3	臨床研究総合センター データサイエンス部	データマネジメント、ITシステム、モニタリング、生物統計、品質管理、品質保証、事務
4	臨床研究総合センター 治験管理部	CRC、試験物製造、事務
5	臨床研究総合センター 医療開発戦略室	開発企画、知財・契約
6	特定臨床研究管理室	臨床試験管理、CRC
7	がんセンター がん医療開発部	臨床研究専門職(がんの研究者主導臨床研究の研究者支援)
8	相談支援センター	開発企画、臨床試験管理
9	事務部 経営管理課研究推進掛、倫理支援・利益相反掛	広報、事務、法務
10		

## 臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口					
<b>■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について</b>					臨床試験(治験を除く)専用の窓口がある
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
窓口の名称		相談支援センター			
1	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	相談支援センター 患者さん・ご家族の方へ		
		アドレス	<a href="http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient">http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient</a>		
電話		代表		(内線)	
		直通	075-751-4748		
<b>■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について</b>					臨床試験(治験を除く)専用の窓口がある
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
窓口の名称		相談支援センター			
2	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	相談支援センター		
		アドレス	<a href="http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/">http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/</a>		
電話		代表		(内線)	
		直通	075-751-4748		

OK

OK

【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口					
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について				臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある	OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
1	窓口の名称		相談支援センター		
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	相談支援センター 患者さん・ご家族の方へ		
		アドレス	<a href="http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient">http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient</a>		
	電話	代表		(内線)	
直通		075-751-4748			
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について				臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある	OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
2	窓口の名称		相談支援センター		
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	相談支援センター		
		アドレス	<a href="http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/">http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/</a>		
	電話	代表		(内線)	
直通		075-751-4748			
【治験】の問い合わせ窓口					
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について				治験専用の窓口がある	OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
1	窓口の名称		相談支援センター		
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	相談支援センター 患者さん・ご家族の方へ		
		アドレス	<a href="http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient">http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient</a>		
	電話	代表		(内線)	
直通		075-751-4748			
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について				治験専用の窓口がある	OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
2	窓口の名称		相談支援センター		
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	相談支援センター		
		アドレス	<a href="http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/">http://www.soudanshien.kuhp.kyoto-u.ac.jp/</a>		
	電話	代表		(内線)	
直通		075-751-4748			

# 教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

## 切れ目のない支援の提供(右図)

教育支援に関しては主として院内学級を中心に、院内学級の教師、医師、看護師、必要に応じて理学療法士など多職種が連携して、初診時から退院、外来に至るまで切れ目のない支援を行っている。学童期の患児に関しては、京都市立桃陽総合支援学校に京大病院分教室が設置されており、小学部、中学部の院内学級で学校教育を行っている。治療上の理由などで病室を出られない患児に対しては、院内学級から教師が病室に出向いて授業が行われている。

**ICTを活用**することで、本校のみならず復学先の学校とも連携して授業を行っている。院内学級での学習をスムーズにするため、月一回、院内学級カンファレンスを持ち、医師、看護師、院内学級教師、支援学校(副)校長、医療ソーシャルワーカーらが出席して、全ての生徒の病状、院内学級での生活や学習状況など情報の共有を行い、問題点がないか確認・相談の場としている。

**復学カンファレンスの実施** 退院が近づいてくると、保護者、希望により患児本人や復学先学校の教師、養護教員、院内学級教師、医師、看護師、理学療法士などで復学カンファレンスを行う。医療者からは病状や学校生活での注意点の説明、教師からは学習状況の申し送り、本人や両親の意向を汲んだスムーズな復学のための話し合いの場を設けている。

**就学前の患児**に対しては病棟保育士も関わって、復園先の保育士、両親、医師などからなる復園カンファレンスを持ち、学童と同様にスムーズな橋渡しを行っている。

**高校生に対する学習支援**に関しては、AYA世代用の自習室を整備しているほか、ベッドサイド支援も行う。現在、週3~4回で実施中。平成28年度から京都府小児慢性特定疾病児童等学習支援事業として取り組み、原籍校からの支援が得られるようになった結果、懸案であった遠隔授業による単位認定が認められた症例ももつことができた。復学に関しても、桃陽支援学校や医療ソーシャルワーカーなどを含めた多職種による支援を実践している。

入院

### 院内学級カンファレンス(月1回)

参加者: 医師、看護師長、院内学級教師、  
テーマ: 病状、院内学級での生活・学習状況  
問題点の確認、退院予定者の確認

### Web活用遠隔授業

フューチャースクール事業  
学びのイノベーション事業

他校との交流授業

復学先学校との交流

退院前

### 復学カンファレンス

参加者: 本人、保護者、復学先学校教師、  
院内学級教師、医師、看護師、理学療法士  
テーマ: 病状、学校生活での注意点の説明  
学習状況の申し送り  
復学先学校の受入れ体制の確認



外来

### 復学状況フォローアップ

医師、MSW、院内学級による  
復学状況の確認、相談

## 長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 京都大学医学部附属病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**1枚におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙25を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

### ○患者家族宿泊施設(京都大学芝蘭会館別館)

- ・病院からの距離…約700m
- ・施設内の設備…各部屋にバス、トイレ、エアコン、テレビ、冷蔵庫、電気ポット、無料インターネット接続などの設備がある。  
滞在施設には京都大学医学部同窓会「芝蘭会」の職員が常駐している。
- ・小児入院患者の家族にはシングルルームを特別料金で提供している。



### ○京都ファミリーハウス

- ・本院で治療を受けた方や、その家族の善意で設立され、ボランティアで運営されている宿泊施設。  
遠方から治療のために京都に来て、滞在する患者家族が、安心して安価で宿泊できるよう京都市内に3施設、12部屋が提供されている。
- ・小児科病棟から約850mの1ヶ所が近く、ワンルームマンションを1泊から利用可能になっており、調理スペースには炊飯器、電子レンジ、冷蔵庫、台所用品、食器を常備しており、洗濯機、掃除機、自転車などを備える。

PDCAサイクルについて

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院  
 時期・期間: 令和元年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している  はい (はい/いいえ)
- ②院内誌、チラシ等で広報している  はい (はい/いいえ)
- ③ホームページに掲載している  はい (はい/いいえ)
- ④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください  はい (はい/いいえ)  
<https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/outline/iso9001.html>
- ⑤地域の広報誌等で広報している  いいえ (はい/いいえ)
- ⑥その他の方法で掲載している  いいえ (はい/いいえ)
- ⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

OK  
OK  
OK  
OK  
OK

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 安全で良質な医療サービスの提供	患者ごとの中心の病がいた病院として、安全で良質な医療サービスを提供するために、職員全員で継続的な	別紙フロー図に基づき、内部監査等を行う
2		
3		
4		
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	別紙フロー図に基づく
2	
3	
4	
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙26を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無  あり (あり/なし)  
 ファイル形式  PDF (ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)  
 その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制】

京都大学医学部附属病院は、安全で良質な医療サービスを提供するため、国際標準を満たした品質(医療の質)マネジメントシステムを構築し、2018年3月14日にISO9001の認証を取得しました。  
 職員全体でPDCAサイクル(Plan-Do-Check-Act)をまわし、継続的な改善活動に取り組んでいます。  
 患者さんには一層安心して満足いただける医療を提供し、社会に貢献します。

▼京都大学医学部附属病院品質マネジメント組織内規を制定

▼各診療科、中央診療センターの各部門(検査部、手術、リハビリテーション部、救急部、輸血治療部、人工腎臓部、内視鏡部、遺伝子診療部など)、看護部、薬剤部など全ての診療部門と事務部にISO担当者を配置し、病院全体で組織的な改善策を講じる体制を整備している。

### 医療安全体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 京都大学医学部附属病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全管理室			
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー					
職種	常勤/非常勤	専従/専任/兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数	
1 医師	常勤	専従	1	1	
		専任	0	0	
		兼任	2	0	
	非常勤	専従	0	0	
		専任	0	0	
		兼任	0	0	
2 薬剤師	常勤	専従	1	1	
		専任	0	0	
		兼任	0	0	
	非常勤	専従	0	0	
		専任	0	0	
		兼任	0	0	
3 看護師	常勤	専従	1	1	
		専任	1	0	
		兼任	1	0	
	非常勤	専従	0	0	
		専任	0	0	
		兼任	0	0	
4 教員(倫理担当)	常勤	兼任(5割未満)	1	0	
5 事務補佐員	非常勤	兼任(5割未満)	1	0	
6					
7					
8					
9					
10					

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		患者相談窓口			
電話	直通				
	代表	075-751-3111	(内線)		

OK